

# 予防接種について 《 麻しん風しん第1期・2期 》

## 金沢市の乳幼児期に受ける定期予防接種

(2020年10月1日現在)

乳幼児期の 予防接種		受ける時期と接種回数	ワクチン 種別
ロタ ウイルス	ロタリックス	出生6週0日後から24週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔をおいて2回経口投与	生ワクチン (経口)
	ロタテック	出生6週0日後から32週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔をおいて3回経口投与	
Hib (インフルエンザ菌 b型)	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて3回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注)	不活化 ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて2回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注) ②1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
小児用 肺炎球菌	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて3回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に(生後12か月～15か月の前日までを標準的接種期間として)1回接種(注)	不活化 ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて2回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に1回接種(注) ②1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 60日以上の間隔をあけて2回接種 ③2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
B型肝炎		1歳の誕生日の前日までに(標準として生後2か月～9か月になるまでに)27日以上の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1回接種	不活化 ワクチン
ジフテリア 百日せき 不活化ポリオ 破傷風 (DPT-IPV)	1期 初回	生後3か月～90か月(7歳6か月)の前日までに 初回: 20日以上(標準として20日～56日)の間隔をあけて3回接種 追加: 1期初回(3回)終了後、6か月以上(標準として1年～1年半)あけて1回接種	不活化 ワクチン
	1期 追加		
BCG		1歳の誕生日の前日までに(標準として生後5か月～8か月になるまでに)1回接種	生 ワクチン
麻しん 風しん (MR)	1期	生後12か月～24か月(2歳の誕生日の前日)までに1回接種	生 ワクチン
	2期	小学校就学前1年間(幼稚園等の年長さん相当の年齢)にある間に1回接種 ※別途個別に通知します。	
水痘		生後12か月～36か月(3歳の誕生日の前日)までに3か月以上(標準として6か月から12か月まで)の間隔をあけて2回接種 ※1回目の標準的な期間は、生後12か月から生後15か月になるまでです。	生 ワクチン
日本脳炎	1期 初回	生後36か月(3歳 <sup>※</sup> )～90か月(7歳6か月)の前日までに ※標準的な接種開始時期は3歳です。生後6か月から接種可能です。 初回: 6日以上(標準として6日～28日)の間隔をあけて2回接種 追加: 1期初回(2回)終了後、6か月以上(標準としておおむね1年)あけて1回接種	不活化 ワクチン
	1期 追加		

(注) Hibワクチンおよび小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始月齢等によって接種回数が異なります。接種回数、間隔などは接種医とよくご相談ください。その他、任意予防接種として、おたふくかぜ、インフルエンザなどがあります。

周知方法 個別通知 接種場所 予防接種協力医療機関 接種時期 通年

### ◆他の予防接種との接種間隔(別の種類の接種を行うまでの期間)◆

注射生ワクチンを接種した場合: 次回別の種類の注射生ワクチンを接種する場合は、接種した日の翌日から起算して、27日以上あけます。

## 麻しん風しん

麻しんは感染力が強く、手洗い、マスクのみでは予防できません。麻しんや風しんを予防するには、ワクチン接種が有効です。

1回の接種で95%以上の子どもは、免疫を得ることができますが、つき損ねた場合の用心と、年数がたつて免疫が下がってくることを防ぐ目的で2回接種(第2期)が行われるようになりました。

第1期と第2期の計2回の接種を受けましょう。

## 麻しん(はしか)とは?

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかります。主症状は高熱、せき、鼻汁、めやに、発疹です。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、(100人中1～6人)、中耳炎(100人中7～9人)、脳炎(1,000人中1～2人)があります。亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例です。医療が発達した先進国であっても、かかった方の約1000人に1人が死亡するとても重症の病気です。

## 風しんとは?

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状で始まり、主症状は発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などです。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

主な合併症としては、関節痛、血小板減少性紫斑病(3,000人に1人)、脳炎(6,000人に1人)などです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害のある子が生まれてくる可能性が高くなります。

## 麻しん風しん(MR)混合ワクチン

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

1歳から2歳の間に麻しん又は風しんにかかる可能性が高いので、1歳になったらなるべく早く1回目の予防接種を受けてください。

第2期の接種は、小学校就学前1年間にある方が対象になります。(別途個別に通知します)

麻しん又は風しんにかかったお子さんも麻しん風しん混合ワクチンを接種できます。罹患していない方のワクチン(麻しんワクチン又は風しんワクチン)で接種することも可能です。

## 副反応

主な副反応は、発熱と発疹です。他の副反応として、注射部位の発赤・はれ・しこりなどの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。

これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応がまれに生じる可能性もあります。